

園芸科学科講座Vol.20

メロンの摘心



水耕温室メロン…摘心（てきしん）をしました



葉を展開しながらぐんぐん伸びていくメロン
メロンの果実は、9節から12節につけています
それより上の茎も、光合成をたくさんしてもらうためになるべく伸ばしていきます
そのため、横に倒して少しでも節の数（主茎の長さ）を確保します
赤○で囲んだところがこのメロンの主茎の先端です
しかし、さすがにもうこれ以上伸ばす場所がなくなりました

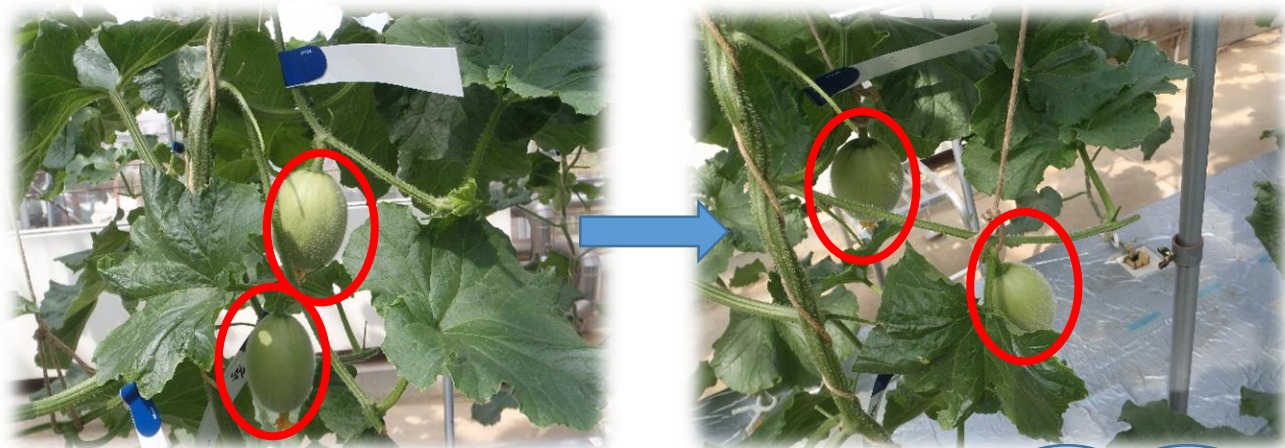
そこで…



写真左のように先端を切り落とします

このように主茎の先端を切除して
それ以上伸びないようにすることを
「摘心（てきしん）」といいます

玉ついたメロンを調整します



メロンはどんどん大きくなりますので、ぶつからないように調整します。
1玉1玉丁寧に、観察しながら管理をします。

玉つり（園芸科学科講座 Vol.6を見てください）したメロンがくっつきすぎている場合は、玉同士が接触しないように調整します。

メロンにネットが出現します



4/13受粉のメロン
(5/11撮影)

ネットの出現のしかた

- ① ネットはまだありません
- ② まず、縦方向に傷が出現します
- ③ 様々な向きにネットが張るようになります

メロンのネットは、表皮が中身の肥大に追いつけなくなり生じる亀裂とされています。

亀裂は傷、その傷を保護するカサブタのようなものがネットなんです。

ですから、メロンの表皮に意図的に傷をつけても、その傷はネットになります。

Point

Check!